

アルツハイマー病の治療



参議院議員・薬剤師 神谷政幸

9月28日、エーザイ（株）からアルツハイマー病の新たな治療薬の臨床試験結果が発表されました。抗アミロイド β （ $A\beta$ ）プロトフィブリル抗体「レカネマブ」というもので、主要評価項目（記憶、見当識、判断力と問題解決、地域社会の活動、家庭及び趣味、身の回りの世話）並びに全ての重要な副次評価項目においてプラセボと比較して統計学的に高度に有意な結果が示されたということです。エーザイ（株）は、この試験結果をもとに2022年度中に米国におけるフル承認申請、日本、欧州における販売承認申請を目指しています。このことは、 $A\beta$ 仮説を証明することにもなり、今後の製薬業界の開発活性化のみならず、早期アルツハイマー病当事者とご家族にとって治療の充実等新たな展開につながるものと期待しています。

思い起こせば、薬学部を卒業しエーザイ（株）に入社してMRとして働いていた当時は、アリセプトが開業医にも浸透していった時期でもあり、地域住民の認知症への不安解消の一助となり、家族の希望に繋がっているという話を聞いたことがありました。

患者は医師の前では問題がないようにふるまうことが多く、薬剤師が服薬指導時等で異変に気づき、家族と話し合っ発見につながることもあります。私も薬局において、ご家族と話し合い開業医へ紹介し治療開始につながった経験があります。薬局薬剤師が地域の身近な相談相手として果たしていく役割も大きいと思います。

新薬の誕生は、その疾患で悩む当事者と家族の希望となり、その医薬品が安心安全に使用されることが一層求められると思います。レカネマブの試験結果を見ながら、私たち薬剤師が受診勧奨も含めた健康サポート面でも職能をより発揮できる環境整備に取り組んでいきたいと、改めて強く思ったところです。